

柔らかな日差しと爽やかな風に、新しい季節の到来を感じるこの佳き日に、入学式を挙げてきますことを、教職員を代表して心より御礼申し上げます。

ただいま入学を許可しました新入生の皆さん、入学おめでとうございます。皆さんは、本日から名城生として本校の伝統を担う一員となります。

本校は、学校法人名城大学が掲げる教育理念のもとに「知・徳・体の調和する人格の完成」を目指すことを教育目的と定めております。また、2026年の開学100周年に向けて、「多様な経験を創り出す挑戦する学校」というビジョンを掲げ、「主体的に学ぶ力」と「突破力」を備えた生徒を育成することをミッションとしております。

さて、令和4年度から高等学校において、新しい学習指導要領が実施されます。文部科学省は新しい学習指導要領では「総合的な探究の時間」をより一層、重視しています。主体的に問題を解決する人を育てる教

育がますます強まっていけます。本校はこれまでに、文部科学省のスーパー・サイエンス・ハイスクールとスーパー・グローバル・ハイスクールの指定校として、従来の授業に加えて課題探究型の授業を展開してきました。スーパーサイエンスクラスや国際クラスのみならず、すべてのクラスに課題探究型の授業が導入されています。これらの授業は、単に知識の習得だけではなく、学びの過程で構築される論理的思考力の育成を目的としています。

課題探究型の授業は、知識や技能を習得し、その証をテストで点数化するという従来の学力のみならず、非認知能力を養うために行われます。非認知能力とは、意欲・自尊感情・忍耐力・コミュニケーション力・他者への共感など、数値に表しにくい能力を指します。これらの目には見えにくい非認知能力を養うことは、社会に出てから、多様な人と協働して課題を解決することに役立ちます。

今年の2月に北京で開催された冬季オリンピックで銀メダルを獲得したフィギュアスケートの鍵山優真選手。彼の父親 正和さんはコーチとして鍵山選手の指導にあたってきました。正和さんもフィギュアスケートの選手として、オリンピックには二度の出場の経験があります。鍵山選手がスケートをはじめたのは父親の影響です。

父親の正和さんがスケートを始めるきっかけとなったのは、正和さんの母親が三十代になってスケートを習ったことでした。当時、小学二年生だった正和さんも母親と一緒に習い始めたのです。母子家庭でスケートの月謝を払うのは大変だったようですが、二人ともスケートにのめりこんで、やがて正和さんは全国大会で優勝するようになりました。母親は、息子を絶対にオリンピックに出すんだと、会社勤めをしながら、夜中に手作りの衣装にパンコールを縫い付けて、正和さんを支え続けたのです。

鍵山選手が中学生の時、父親の正和さんは脳出血で倒れました。そんな状況においても、弱音を吐かずにスケートを続けて、オリンピックへの出場を果たしました。獲得した銀メダルは、鍵山選手の努力のみならず、親子三代で力を合わせて夢に向かった努力の結晶だと思っています。

新入生の皆さん、夢を大切にしてください。本校でのすべての学びを通して、自分を大切にし、自分を高めることを心掛けてください。そして「挑戦する心」を育ててください。本校の教育環境を十分に活用し、三年後を見据えて、あなたの夢の実現に繋がる高校生活を過ごして欲しいと願っています。

結びにあたり、新入生の皆さんの入学をお祝いするとともに、ご列席の皆様のご健勝をお祈り申し上げ、式辞といたします。

令和四年四月四日

名城大学附属高等学校長 伊藤憲人